

西多摩地区保護司会

会報

第109号

■発行 西多摩地区保護司会
会長 下嶋 和彦
■編集 西多摩地区保護司会
広報部
■発行日 平成25年3月15日



■紅梅白梅：福生神明社



西多摩地区保護司会新年会	2
多摩地区保護司会連絡協議会研修会	3
写真で振り返る社会を明るくする運動の活動状況	4~5
自主研修会報告	6~7
会務報告・編集後記	8

西多摩地区保護司会新年会

広報部 尾崎 昌子

一月二十二日（火）、午後二時から保護司一一三名、来賓十七名が出席して瑞穂町民会館で開催された。吉澤副会長の開会の言葉に続いて、下嶋会長から年頭の挨拶と、昨年七月に開所したサポートセンターについての話があった。半年たった今、サポートセンターは大変便利に有効



活用されている。今後も皆様方の情報交換の場として、複雑多様化する犯罪事犯への対応の一助となるよう期待している、と話した。

来賓として石渡統括保護観察官から二十四年の犯罪白書において犯罪者数が減少しない現状に鑑み、昨年

七月政府の犯罪対策閣僚会議において「再犯防止に向けた総合対策」が決定された。国民が期待する安心安全の社会を作るため、皆様のご支援ご協力をお願いしたいと身の引き締まる年頭の祝辞を戴いた。

次いで西多摩地区更生保護観察協会会長石塚瑞穂町長が挨拶された。保護司の皆様におかれては非行や犯



罪に陥った人達の更生と社会復帰のため、暖かい人間愛の精神をもつて強い使命感により常にご尽力されています。そのご苦労に対しても深く敬意を表すとともに感謝しているとの祝辞を戴いた。

来賓の方々、新任保護司七名の紹

介があり、武内副会長の音頭で乾杯が行われ懇親会へと移った。宴だけなわの中、余興として瑞穂分区女性保護司によるズンドコ踊り、あきる野分区有志の馬鹿面踊り、会場一杯に初笑いが満ち溢れ恒例の抽選会も盛り上がった。斯くて平成二十五年の新年会は和やかに終了した。

更生保護女性会新年会

青梅・奥多摩更生保護女性会

新年明けましておめでとうござります。平成二十五年一月二十五日晴天の下、青梅市新町“すし処なか安”にて参加者二十八名が集いました。

西多摩地区更生保護

女性会菱田会長より年頭のご挨拶を戴き新年会が開催されました。

開催にあたりましては季節柄寒さ対策も考慮しつつ楽しい会にと、地区役員一同精一杯の力を發揮し準備を致しました。宴にては東京更生保護女性連盟副会長坂本悠紀子様のご挨拶で、担当地域における日々の活動や他地区には無いパワフルなお話を聞くことが出来ま



した。私達のこれから活動の背中を押して戴ける心強いご挨拶の中から勇気をいただくことが出来ました。宴席も参加者皆様の楽しげに話し合う声が飛び交い、親睦の場として有意義な時を過すことが出来ました。最後に童謡「ふるさと」「愛をみんなで」を合唱し活動の本質を再確認致しました。今年も心温まる新年会を無事終ることが出来安堵しております。会員の皆様を始め役員一同力を合せ更生保護女性会活動の輪を広げていけたらと思います。どうぞ今年も一年宜しくお願ひ申し上げます。

多摩地区保護司会連絡協議会研修会

「詩が開いた心の扉」

広報部 松永 力

去る二月七日午後、立川第二法務総合庁舎会議室において二十四年度多摩地区保護司会連絡協議会による研修会が開催され、一三〇名余の参加者の研修となりました。

今回の研修は、「詩が開いた心の扉」という演題で、寮 美千子先生による奈良少年刑務所で先生が受け持つ「社会性涵養プログラム」の中から体験を通した受刑者達との「童話や詩の授業」の係わりを中心とした講演でした。

はじめに先生は、自分の経験を述べ、千葉の高校を卒業、外務省に一年勤め、コーピーライターを経験、三十一歳で作家デビュー、そして小さい頃から古い都に憧れ五十一歳のとき念願の奈良へ転居した。奈良へ移つて古風なたたずまいの奈良少年刑務所を見学したことが縁となつて、その少年刑務所の受刑者達と係わるようになつた。刑務所には十七、二十六歳の約六五〇名の人人が収容されている。少年刑務所受刑者の多くは、全く常識が判らない。人間としてのコミュニケーションが出来ない。所謂人としての常識が欠如した、会話

や意思疎通、自己主張のできない「心の扉の閉ざされた」人達であるという。この少年達の心の扉をどうしたら開けることができるのだろうか。先生の作家としての童話や詩を通して閉ざされた心の扉を少しづつ開かせていった苦労の話をされました。その中の一つに、ある時、「雲」という題で少年達の詩を書いてもらいました。少年は、「空が青いから白をえらんだのです」という詩を作りました。



保護司会と更生保護女性会との協議会

広報部 武内 昌一

二月十六日（土）西多摩地区保護司会と西多摩地区更生保護女性会との協議会が、両団体から役員三十四名が出席して、瑞穂町ふれあいセンターで開催された。

下嶋会長が保護司会を代表して「本日は互いに意見を出し合って、よりよい関係をさらに構築し充実していくきましょう。そして、これからも保護司会との協力をお願いします」と、冒頭の挨拶を述べた。続いて、更生保護女性会を代表して菱田会長が「更女と保護司会は連絡を密にして今後とも更生保護活動に努めていきましょう」と、協力強化を訴えた。

自己紹介の後、更生保護を支える二つの団体でそれぞれの立場で意見を出し合つた。意見交換会に先立つて更女会長から更生保護女性会の少

年の心を開かなくて自分のやつてきたことを反省することなどできないのではないでしようか」という言葉が印象に残りました。

◆講師 寮美千子先生の略歴

一九五五年東京生れ、二〇〇五年長編小説「樂園の鳥」で泉鏡花文学賞受賞。絵本・童話・詩・小説と幅広く活躍。



その他、各地区の明るい社会を築くための支援状況や予防活動の発表があり、一時間三十分に及ぶ充実した二団体の協議会は、次回を約して散会した。

年院等の視察研修、子育て支援等の活動状況と視察結果等の概略の説明があり、協議会の本題に入つた。更女から保護司会への要望として、社明運動等の大きな催しが行われる場合、更女の会員に参加を要請するのに、運動のスケジュールを早めに確保するため、計画段階からの会議参加を望む声等が寄せられた。

保護司側からは、両団体とも会員数の減少傾向に歯止めが掛からない状態が続いている現在、新人確保の発掘に、どのように取り組んでいるか等の質問が發せられた。

平成二十四年度

各分区の写真でふり返る
社会を明るく運動の活動状況

(七月一日～六日)



奥多摩分区（奥多摩駅 7月 4 日）



檜原分区（五日市駅 7月 2 日）



日の出分区（武蔵引田駅 7月 2 日）



瑞穂分区（箱根ヶ崎駅 7月 2 日）



青梅分区（青梅市役所 7月 2 日）



青梅分区（青梅市役所 7月 2 日）



羽村分区（羽村駅東口 7月2日）



羽村分区（羽村駅東口 7月2日）



福生分区（福生駅西口 7月2日）



福生分区（福生市役所）



あきる野分区（秋川駅 7月6日）



あきる野分区（五日市駅 7月6日）

寺での座禅会研修

警策に打たれて

あきる野分区 村上 浩

当分区では九月二十七日、研修会の一環として市内の珠陽院（臨済宗）で、保護司の生田惠稔住職のご指導のもと、座禅会を行いました。以下、体験の感想をご報告致します。

山門を入ると外の喧噪が嘘のよう境内は静かでした。本堂の大屋根は午後の柔らかい残暑を浴びながら、端正な庭に影を落とし、蓮の葉を色濃くしていました。



普段、日常の瑣事に少なからず煩わされている私は、此処は思わず心が癒されている空間でした。

本格的な座禅

は初めてでした。

坐相を整えるための足の組み方や視線の落とす位置、さらには呼吸の仕方や警策作法のご指導を受けている時は緊張しました。しかし和讃を唱え座禅が始まると、何故か心が落ち着き、半跏趺坐の姿勢も意外と楽に出

きました。

特に警策は貴重な体験でした。ご住職に肩をバシッと打たれた瞬間、かなりの衝撃を受けたものの、次の刹那からは曰く言い難い感触が肩や背中に残り、爽快な気分がその後に続きました。やがて頭の中は、自分の心と向き合う自分が居て、保護司活動と座禅との関わりを考えていました。

対象者の更生保護を円滑に遂行するには、ゆとりのある豊かな心が必要です。座禅はこれを修養する一つの機会です。今回

は僅かな時間の体験であり、折角の彈ける警策の響きにも関わらず、どこまで自分が目覚めたかは分かりません。ただ堂内の扁額、【是外無別事】に

自分なりに感じることが出来ました。

またご住職の「雲水の一日」の講話は、俗世間の私達にも分かるように、平易な言葉で気さくに話されたので、心が解かれ堂内も和み、有り難く感じました。

終了後に食した弁当も美味しく、ひと時の安らぎを頂いたように思い、担当の皆様に感謝致します。

府中刑務所を研修して

青梅・奥多摩更女 数野 若江

十一月十二日（月）色づき始めた櫻並木をとおり府中刑務所を訪れま



現在二、八四二名収容。その内訳は薬物、暴力団等、その他外国人が五十四ヶ国、四五一名が刑に服している。言葉や宗教宗派の違いによって、ベジタリアン、禁豚食など食事の制限を示した注意事項が監房のドアに、また他の入口ドアには本人の希望購読紙ディリーヨミウリが貼っていました。高齢者も大変多いと聞きますと、個々への対応の大変さを感じました。作業室では、全員が両手を膝に置き眼を閉じていました。広い所内的一部を緊張しながら速足で歩きましたが、職員の方々の改善更生、社会復帰への様々な配慮を感じました。

私達はこれからも出所後に必要な衣服等の援助を続ける事を約し、キャラックに廻りました。



した。

参加者は更女、保護司合わせて二十六名。都会の真ん中に位置するもつとも大きい施設と聞いておりましたが、研修早々から緊張しながら、刑務官の映像を使った説明を聞きました。

青峰学園視察研修

青梅分区 中村 紹男

九月十一日、市内にある都立青峰学園の視察研修を行った。この研修は昨年に続いて二回目で、身近にあら施設でも知らないところが多く、地域との連携が叫ばれている中、これらの施設の視察研修をとおして保護司活動にも活かして行こうとするものです。

当日は保護司二十一名が参加、諫訪校長先生から学園の概要について説明をいたいた後、校内を見学した。

青峰学園は都立青梅東高校が閉校となつたため、この校舎を改修し平成二十二年開校。知的障害教育部門と肢体不自由教育部門の二部門がある。知的障害教育部門は軽度の障害を持つ人を対象にした高等部で定員一二〇名、学区は都内全域で現在一年生から三年生まで一一八名

が在籍している。

学科は就業技術科で四コースあり、ビルクリーニングや農園芸、物流事務、製パン、介護など就労を目指して勉強している。昨年度は卒業生四十名中三十八名が就職し、素晴らしい実績を上げている。

肢体不自由教育部門は小学部・中学部・高等部が設置されており、学区は青梅市と奥多摩町で現在二十九



名が在籍している。

学習内容は一般教育課程のほか、機能回復訓練や、コミュニケーション能力を養うことに重点を置いた学習を行なっている。

校舎内は掃除も行き届き、各階ごとに階段等が色分けされ、大型のエレベーター・スロープも完備、教室や廊下の床、机、椅子はもとより、ロッカーまで木材を使用、落ち着いて学習が出来る環境づくりになつている。実習室では近隣の学校や公共機関等から実際に受注した、印刷や封入作業をしており、実習農園では暑い中、野菜の栽培や苗の育成など一生懸命取り組む姿が印象に残つた。

保護司活動も社明運動等の啓発活動を通して地域に根差してきているが、今回の研修のように身近な施設を知ることで得るものも多く、今後の活動にも役立つ研修となつた。

北多摩西地区保護司会 との合同研修会

広報部 武内 昌一

他地区的保護司会との交流会と組織運営の動向を互いに交換する合同研修会が、三月十二日(水)に立川市の立川グランドホテルで開催された。今回は北多摩西地区保護司会が主催で西多摩地区保護司会からは理事

役員二十二名が参加。一方、北多摩西保護司会からは同様に二十一名の方々が研修会に出席して開かれた。

講話に先立つて、鈴木英一立川支部統括保護観察官から立川支部の職員の移動及び配置の説明があり、四月からの觀察所の体制を述べられた。

議題は「更生保護制度に関する最近の動向」で、同觀察官から保護司の現状、少年が少年院を仮退院する際の心理状況等についてデータ表を引用して講演された。

その後、両保護司会の交流会に移り、情報交換が活発に行われ会を盛り上げた。閉会で再会を約して今回の合同研修会は閉幕した。



会務報告

退任保護司（敬称略）

長い間保護司活動への奉仕ありがとうございました。

平成二十四年十二月二十一日退任

百瀬 清澄（羽村分区）

（在任十四年）

総会日程



大谷 宜雄
(青梅分区)



杉村 誠二
(奥多摩分区)

奥多摩分区総会
四月十七日(水)

檜原分区

四月十六日(火)



西多摩地区保護司会及び各分区の総会開催日程

西多摩地区保護司会総会

四月二十六日(金)

午後二時

瑞穂町町民会館

青梅分区総会

四月十七日(水)

福生分区総会

四月十九日(金)

羽村分区総会

四月二十三日(火)

松永 力 様 (青梅分区)

享 年 七十四歳
在任期間
十一年五ヶ月

平田みつ枝
(福生分区)

竹田 良昭
(福生分区)

瑞穂分区総会

四月十日(水)

日の出分区総会
四月十九日(金)

編集後記

◆ 現広報部員による編集の最後の会報誌となりました。それぞれの部員がそれぞれの出来事の報告や取材で話題を集め保護司会の会報誌に取り上げ上梓してきましたが、

情報伝達、保護司及び保護司会の活動報告を十分に提供できなかつたり、不十分な記事になつたりしました。紙面を飾るにふさわしい内容は何か、をもつと追求すればよかつたと、思つたりして反省しています。

◆ この二年間で協力いただいた方々、また原稿を投稿していただいた会員の方々に感謝を申し上げます、よかつたと、思つたりして反省しています。

◆ と同時に、これから保護司としての活躍をお祈り申し上げます。

◆ 次号からは新メンバーが会報誌発行に取り組み、新しい感覚で編集ができるのことを期待して編集後記とします。

